



只見の名前を冠する生き物 タダミハコネサンショウウオ

只見町では、これまでクロサンショウウオ、トウホクサンショウウオ、ハコネサンショウウオの3種のサンショウウオが知られていました。しかし、晩秋から初冬に産卵する珍しい個体が見つかり、国立科学博物館の吉川夏彦研究員らの調査により2014年9月に新種「タダミハコネサンショウウオ」として記載されました。その発表から10年が経過しました。

タダミハコネサンショウウオは、近縁種のハコネサンショウウオに比べ体に黄色の筋がなく全体に黒っぽい姿が特徴です。しかし、その生態については不明な点が多く、現在、吉川研究員と筑波大学の研究者が調査を行っています。タダミハコネサンショウウオは環境の変化や乱獲に弱い繊細な生きものですが、只見町の自然の豊かさを象徴する存在でもあります。大切な自然と共にこの貴重な生きものを未来へ受け継いでいくことが求められています。



▲ 溪流に生息するタダミハコネサンショウウオ

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。

■ 企画展 「豪雪に育まれた豊かな川辺の生態系」

会期：2025年7月19日(土)～2025年12月1日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています

※環境にやさしい大豆油インキを使用しています